



CHUGAI

Roche ロシュ グループ

2025年12月期 第2四半期決算説明会

2025年7月24日

中外製薬株式会社



創造で、想像を超える。

重要な注意事項

将来見通し

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び展望に関する将来見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

Core実績

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とは、IFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであります。なお、当社が非経常事項と捉える事項は、事業規模や範囲などの違いによりロシュと判断が異なる場合があります。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

注：

- ・ 本資料の数値は億円未満を四捨五入して表示。増減、％は億円単位で表示された数字で計算
- ・ 本資料の増減金額の表記は以下の通りです。
 - ① 収益及び原価・費用の増減は、増益方向を「+」、減益方向を「△」で表示
 - ② 増減率は金額の「増」「減」をそれぞれ「+」「△」で表示

Agenda

01 2025年第2四半期の総括

代表取締役社長 CEO

奥田 修

02 開発パイプラインの状況

上席執行役員

プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

03 2025年第2四半期(中間期)連結決算 (Core)概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

2025年第2四半期の総括

代表取締役社長 CEO

奥田 修

Financial Overview

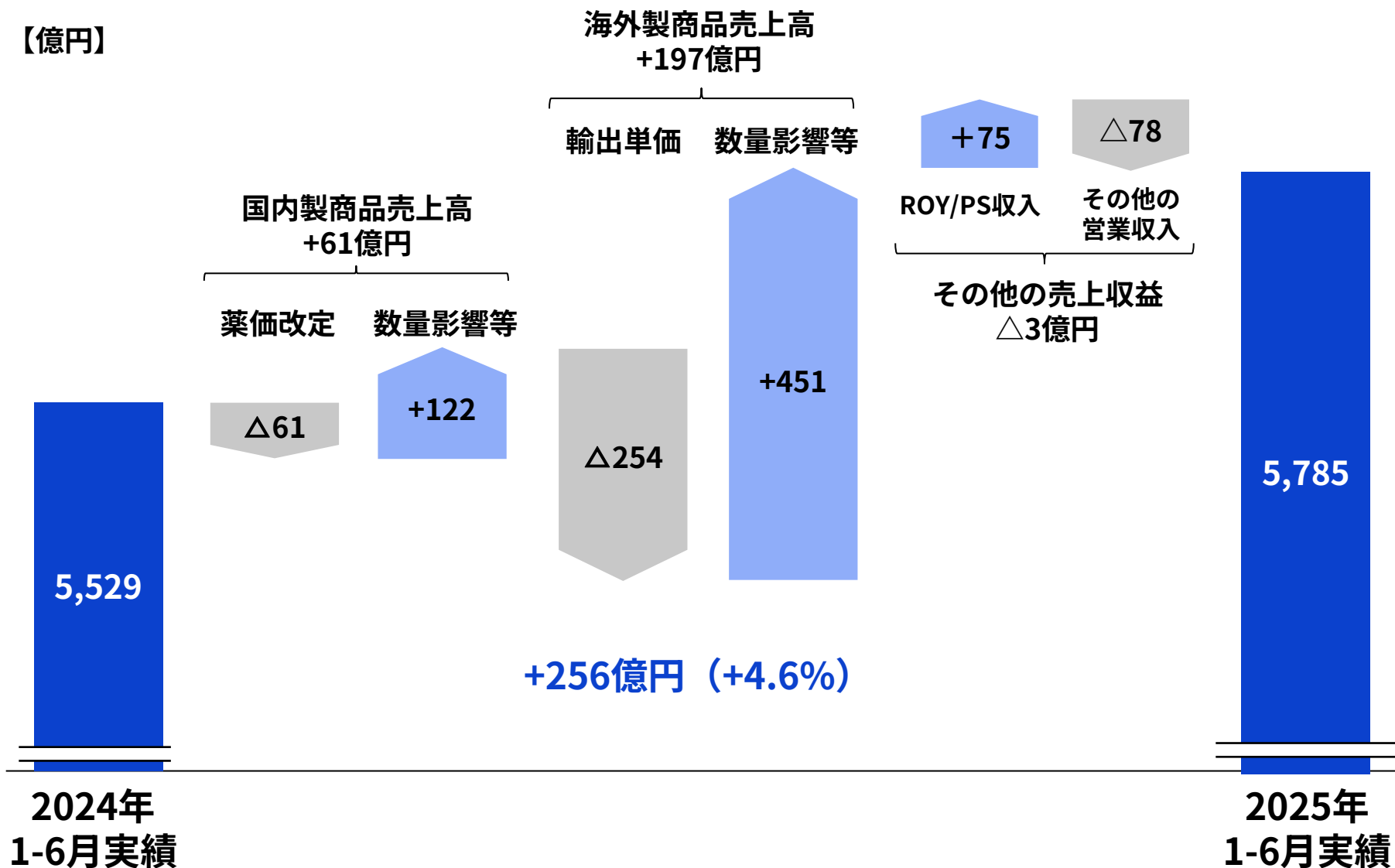
- 国内外の製商品売上高がともに増加し、増収増益の決算
- 上期の順調な進捗を踏まえて、通期予想の達成を見込む

Core実績 【億円】	2024年 1-6月 実績	2025年 1-6月 実績	対前同 増減		2025年	
					1-12月 予想	進捗率
売上収益	5,529	5,785	+256	+4.6%	11,900	48.6%
国内製商品売上高	2,172	2,233	+61	+2.8%	4,625	48.3%
海外製商品売上高	2,684	2,881	+197	+7.3%	5,555	51.9%
その他の売上収益	673	670	△3	△0.4%	1,720	39.0%
営業利益	2,628	2,720	+92	+3.5%	5,700	47.7%
営業利益率	47.5%	47.0%	△0.5pts	-	47.9%	-
中間利益	1,895	1,935	+40	+2.1%	4,100	47.2%
EPS (円)	115.15	117.57	+2.42	+2.1%	250.00	47.0%

- 国内売上は、薬価改定及び後発品浸透等の影響を受けたものの、新製品及び主力品が大幅に伸長し、前年比で増加
- 海外売上は、ロシュ向け輸出のアクテムラが大幅に増加し、前年比で増加
- 売上収益は5,785億円（前年同期比4.6%増）、営業利益は2,720億円（同3.5%増）と増収増益

Topline Overview

【億円】



- 国内売上
薬価改定、後発品浸透の影響を受けたものの、新製品のフェスゴ、ピアスカイ、主力品のバビースモが大幅に増加し、前年同期比で増加
- 海外売上
輸出単価減少の影響はあったものの、ロシュ向けアクテムラ輸出の大幅な数量増加や、為替影響により、前年比で増加

ROY/PS収入：
ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入

R&D Overview

- 収益貢献の上で重要なプロジェクトであるorforglipronのP3試験成功やNXT007でのPoC確認など、2025年上期におけるマイルストーンは好調に推移
- 機動的かつ戦略的な早期開発加速に向けた中長期視点での経営判断として、早期臨床開発段階にある自社品パイプラインのうち、5つのプロジェクトの自社開発一括中止決定

青字：年内の予定

- * 導出先のEli Lilly and Companyが実施
- ** 海外導出先のGalderma社が実施
- *** 導出先のVerastem Oncology社が実施

主な試験の進捗

- ① MINT91 P1開始(固形がん/4月)
- ② GYM329 P2開始(肥満症/5月)
- ③ AUBE00(中分子) P1開始(固形がん/6月)
- ④ ヘムライブラ P3開始(フォン・ウィルブランド病、適応拡大/6月)
- ⑤ 5つの自社品プロジェクトを一括中止する経営判断(7月)

主なリードアウト

- ① NXT007(血友病A/P1/2/2月)：PoC確認
- ② orforglipron*(T2D/P3/4月)：PE達成
- ③ ピアスカイ(aHUS/P3)
- ④ orforglipron*(肥満症/P3)
- ⑤ GYM329(SMA、エブリステイとの併用/P2)
- ⑥ GYM329(FSHD/P2)

主な承認申請、承認/適応拡大

- ① NEMLUVIO®***承認(アトピー性皮膚炎、結節性痒疹/2月/欧州)
- ② AVMAPKI™ ***承認(KRAS変異陽性再発LGSOC/5月/米国)
- ③ ピアスカイ承認(PNH/5月/台湾)
- ④ アレセンサ申請(ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の固形がん/6月/日本)
- ⑤ orforglipron*申請(肥満症/グローバル)

■ 主な学会発表の状況

開発品	試験名	学会名
NXT007	NXTAGE試験[P1/2] (血友病A)	国際血栓止血学会 (ISTH 2025)
orforglipron*	ACHIEVE-1試験[P3] (2型糖尿病)	米国糖尿病学会 (ADA 2025)

機動的かつ戦略的なリソース配分により、早期開発全体を加速

- TOP I 2030開始以降、RED SHIFTにより、早期開発段階のプロジェクトが充実
- 今回、これまでに得られているデータとポートフォリオの状況を勘案の上、優先順位付けを行い、一部の自社プロジェクトの自社開発を一括中止する経営判断を実施。優先度の高いプロジェクトへリソースを集中することで、TOP I 2030の目標達成確度を高めていく

現状：

早期開発段階のプロジェクトの充実化

ALPS12(P1)
BRY10(P1)
DONQ52(P1)
GC33(P1)
MINT91(P1)
RAY121(P1)
REVN24(P1)
ROSE12(P1)
GYM329(P2)

LUNA18(P1)
SAIL66(P1)
SOF10(P1)
STA551(P1)
AMY109(P2)

※上記の5プロジェクトを一括中止


今回の経営判断：

RED SHIFT進展に伴い、早期プロジェクト数が増えている中、現時点で優先度の低いプロジェクトの自社開発を一括中止

TOP I 2030の目指す姿：

- 「ヘルスケア産業の
トップイノベーター」
- ・ R&Dアウトプット 倍増
 - ・ 自社グローバル品 毎年上市


世界の患者さんが
期待する


世界の人財と
プレーヤーを
惹きつける


世界の
ロールモデル

充実した中分子ポートフォリオ

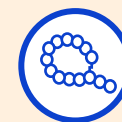
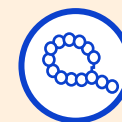
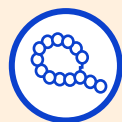
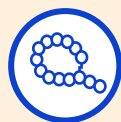
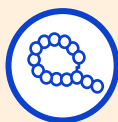
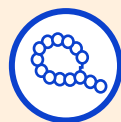
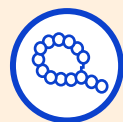
- LUNA18：経口吸収性及び臨床でのRASシグナル経路*の阻害活性が確認された。一方、RAS阻害薬における競争優位性の観点からAUBE00の開発注力を決定
- その他、がん以外の適応となるプロジェクトが新規に前臨床開発段階に移行するなど、中分子医薬品全体の研究開発は順調

2025年7月24日現在

創薬研究

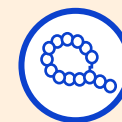
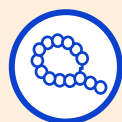
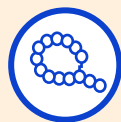
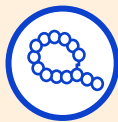
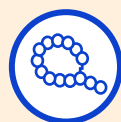
前臨床開発

臨床試験



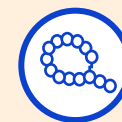
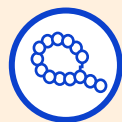
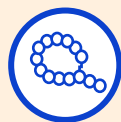
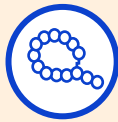
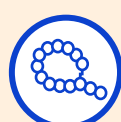
慢性疾患

がん



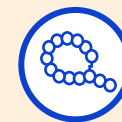
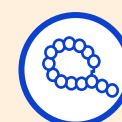
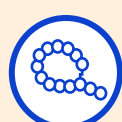
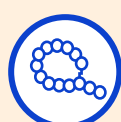
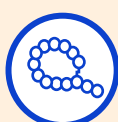
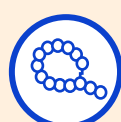
慢性疾患

がん



慢性疾患

がん



慢性疾患

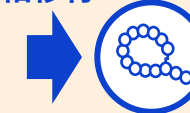
がん

NSCLC
(経口)

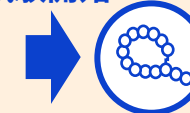
中止

LUNA18
固形がん
(pan-RAS阻害剤
/経口)

相移行

急性心不全
(IV製剤)

試験開始

AUBE00
固形がん
(pan-KRAS阻害剤
/経口)

*RASタンパク質は細胞内にあり、RASシグナル経路の活性化は細胞増殖に関与することが報告されています。

新たな研究棟「UKX」の建設決定（浮間事業所）

■ 低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能の強化

- ・ 中外独自の技術を適用した付加価値の高いプロジェクトが増加している中、開発プロジェクトの速やかな臨床試験入りや開発加速に向けて医薬品の製法開発機能の強化・拡充を目指す

■ 環境配慮型の設備を導入

- ・ 中期環境目標2030におけるフロン対応やCO₂排出量削減に向けた取り組みも実施



【UKX研究棟 新設工事の概要】

1. 総投資額：800億円
2. 着工：2026年5月
3. 竣工：2028年8月
4. 建築面積：5,047m²
5. 延床面積：27,136m²

まとめ

- 国内外の製商品売上高がともに増加し、増収増益の決算。上期の順調な進捗を踏まえて、通期予想の達成を見込む
- 収益貢献の上で重要なプロジェクトであるorforglipronのP3試験成功やNXT007でのPoC確認など、2025年上期におけるマイルストーンは好調に推移
- 機動的かつ戦略的な早期開発加速に向けた中長期視点での経営判断として、早期臨床開発段階にある自社品パイプラインのうち、5つのプロジェクトの自社開発一括中止決定
- LUNA18において、経口吸収性及び臨床でのRASシグナル経路の阻害活性を確認。一方、RAS阻害薬における競争優位性の観点からAUBE00への開発注力を決定。その他、がん以外の適応となるプロジェクトが新規に前臨床開発段階に移行するなど、中分子医薬品全体の研究開発は順調

開発パイプラインの状況

上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司

2Qトピックス (1/2)

2025年7月24日現在

発売	エブリスディ	剤形追加（錠剤）	2025年5月（日本）
承認	AVMAPKI™*	全身療法による治療歴があるKRAS変異陽性再発低悪性度漿液性卵巣がん（FAK阻害剤FAKZYNJA™（一般名：defactinib、錠剤）との併用療法）	2025年5月（米国）
	エレビジス	デュシェンヌ型筋ジストロフィー（歩行可能）（遺伝子治療用製品）	2025年5月（日本）
	ピアスカイ	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2025年5月（台湾）
	バビースモ	網膜色素線条（適応拡大）	2025年5月（日本）
申請	ルンスミオ+ポライビー	再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫（適応拡大）	2025年5月（日本）
	テセントリク	切除不能な胸腺がん（適応拡大）	2025年5月（日本）
	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の固形がん（適応拡大）	2025年6月（日本）
試験開始	GYM329	肥満症	第II相（2025年5月）
	バビースモ	非増殖糖尿病網膜症	国内第III相（2025年5月）
	ヘムライブラ	フォン・ヴィレブランド病	第III相（2025年6月）
	AUBE00	固形がん（pan-KRAS阻害剤 / 中分子 / 経口）	第I相（2025年6月）
	RG6114/inavolisib	PIK3CA 遺伝子変異陽性乳がん	国内第I/II相（2025年7月）

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

*導出先のVerastem Oncology社が実施

2Qトピックス (2/2)

2025年7月24日現在

Readout	テセントリク+アバスチン	第III相 TALENTACE試験（切除不能な肝細胞がん）：主要評価項目のうち1つ（TACE PFS）を達成	2025年5月
	AVMAPKI™*	第II相 RAMP 205試験（膵管腺がん）：安全性および有効性に関するポジティブな結果	2025年5月
契約締結	共同研究 / ライセンス	Gero社との加齢関連疾患に対する新規治療法の開発	2025年7月
パイプライン除外	チラゴルマブ	食道がん（SKYSCRAPER-07試験）：開発中止	
	早期自社品5品目	LUNA18、SAIL66、SOF10、STA551、AMY109：自社開発中止	
学会発表	AVMAPKI™*	第II相 RAMP 205試験（膵管腺がん（1次治療）、標準治療との併用データ）	2025年6月
	NEMLUVIO®**	第III相 ARCADIA長期継続試験（アトピー性皮膚炎、2年データ）	2025年6月
	NEMLUVIO®**	第III相 OLYMPIA長期継続試験（結節性痒疹、2年データ）	2025年6月
	NXT007	第I/II相 NXTAGE試験（血友病A）	2025年6月
	orforglipron***	第III相 ACHIEVE-1試験（2型糖尿病）	2025年6月
	ルンスミオ+ポライビー	第III相 SUNMO試験（再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫）	2025年6月
オープンイノベーション	Chugai Venture Fund, LLC 投資実施（累計6社）	<ul style="list-style-type: none"> Stylus Medicine US拠点の企業2社 	2025年4月 2025年5月、7月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

*導出先のVerastem Oncology社が実施 **海外導出先のGalderma社が実施 ***導出先のEli Lilly and Companyが実施

TACE: 肝動脈化学塞栓療法、PFS: 無増悪生存期間

2025年 主要なR&Dイベント

2025年7月24日現在

	開発品（製品）名	予定適応症 / 試験名	進捗状況
承認 予定品目	<u>エレビジス</u>	デュシェンヌ型筋ジストロフィー（歩行可能）	承認
	<u>バビースモ</u>	網膜色素線条	承認
P3/ピボタル試験 Readout	<u>ピアスカイ</u>	COMMUTE-a試験*：非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）	
	<u>ルンスミオ+ポライビー</u>	SUNMO試験： 再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫	主要評価項目達成
	<u>ルンスミオ</u>	CELESTIMO試験：濾胞性リンパ腫（二次治療）	
	<u>ギレデストラント酒石酸塩</u>	persevERA試験：ホルモン陽性乳がん（一次治療） evERA試験：ホルモン陽性乳がん（一次治療～三次治療）	
	<u>バミキバルト</u>	SANDCAT試験：非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫（UME）	
	<u>ガザイバ</u>	INShore試験：小児突発性ネフローゼ症候群	
P2試験 Readout	<u>GYM329+エブリスディ</u>	MANATEE試験：脊髄性筋萎縮症（SMA）	
	<u>GYM329</u>	MANOEUVRE試験：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	
	<u>NXT007</u>	血友病A	PoC確認／ P3移行を決定**
P1/2試験 Readout	<u>trontinemab</u>	Brainshuttle™ AD試験：アルツハイマー病	P3移行を決定
試験開始	<u>GYM329</u>	肥満症（P2試験）	試験開始

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

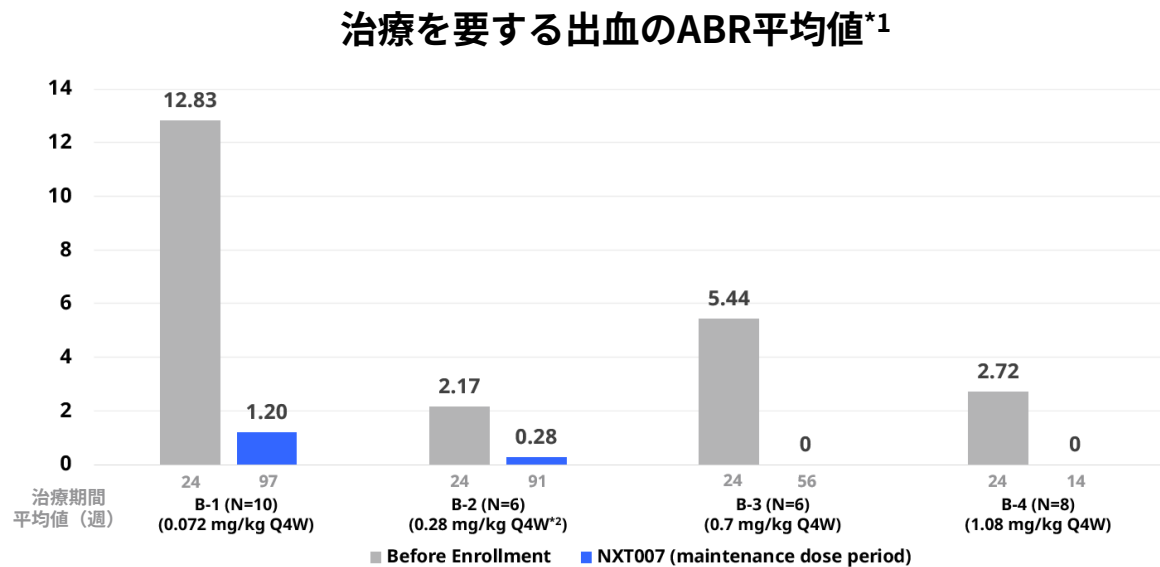
下線：2025年4月24日からの変更点

*成人および青年患者を対象 **3本のP3試験を2026年に開始予定（第VIII因子製剤との比較、ヘムライブラとの比較、小児を対象）

NXT007：インヒビター非保有重症血友病A対象P1/2試験

- 血友病Aの方々を対象としたNXT007の初めての臨床データ。ヘムライブラ未治療の方々が対象
- 高用量コホート（B-3、B-4）では正常レベルと同等の血液凝固第VIII因子活性が期待できる血中濃度に到達し、治療を要する出血は認められなかった。現時点までのデータにおいてはNXT007の忍容性は良好
- 2026年よりヘムライブラとの直接比較を含む3つの第III相試験を開始予定。有効性に加えて、ADA（抗薬物抗体）を含む安全性について、更なる評価を実施

有効性（ABR：Annualized Bleeding Rate（年間出血率））



*1 試験前の年間出血情報は、試験開始前の24週間データを後ろ向きに収集。年間出血率は、評価期間中に観察された出血回数を基に、1年間に換算して算出された値

*2 プロトコル改訂を反映し、投与レジメンを0.14 mg/kg Q2Wから0.28 mg/kg Q4Wに変更

安全性

- 用量依存性の有害事象の増加は認められず、NXT007に関連する重篤な有害事象、および血栓塞栓症イベントは認められなかった
- ADAは30名中22名で認められ、データカットオフ前の最終観察時点でADA陽性であった方は10名。PKに影響を与えるADAの発現が2名で認められたが、エミシズマブと交差反応するADAは認められなかった

	B-1 (N=10)	B-2 (N=6)	B-3 (N=6)	B-4 (N=8)	Total (N=30)
ADA post-baseline incidence *3	7	6	4	5	22
ADA impacting PK	1	0	1	0	2
ADA cross-reacting with emicizumab	0	0	0	0	0

*3 ベースラインにおいてADA陽性の参加者はいなかった

AUBE00 (pan-KRAS阻害剤)

- 中分子技術を適用した2つ目の臨床入りプロジェクト。固形がんに対してP1試験を開始
- KRAS選択的な阻害活性に基づく広い治療域により、pan-RAS阻害剤であるLUNA18を上回る高い薬効を期待

■ AUBE00の特徴

- KRAS-GDPへの結合に基づく選択的な阻害活性により、抗腫瘍効果と良好な安全性プロファイルを期待
- KRASの幅広い遺伝子変異を標的とすることが期待される薬剤。このような薬剤は承認されておらず、Unmet medical needsが高い

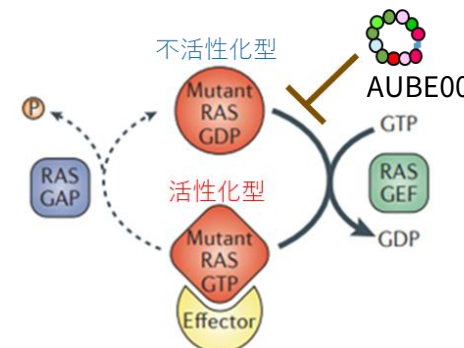
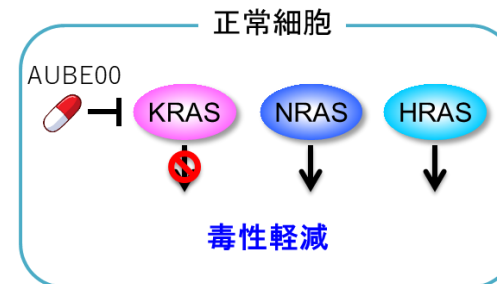
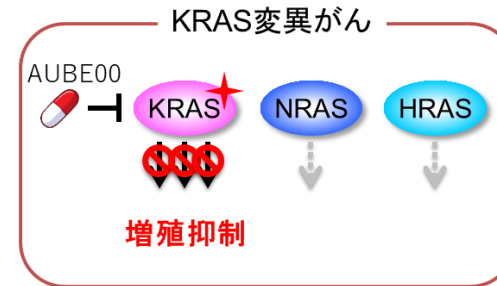
■ KRASとは

- 最も頻度が高く遺伝子異常が認められるがん遺伝子の1つで、がんの発生や悪性化に関与

■ 中分子技術の特徴

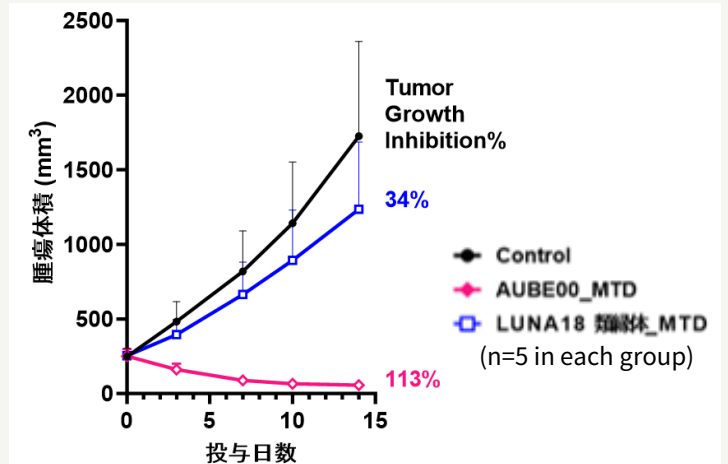
- 非天然アミノ酸を含む環状ペプチド
- 標的タンパクの広い界面と相互作用することで結合親和力の向上が期待される
- 高い膜透過性と代謝安定性を持ち、経口投与が期待できる

GTP: guanosine triphosphate, GDP: guanosine diphosphate,
GAP: GTPase activating protein, GEF: guanine nucleotide exchange factor



ヒトKRAS変異陽性非小細胞肺癌移植マウスモデルにおける抗腫瘍効果 (出典: 社内データ)

LUNA18類縁体の非感受性モデルに対して、AUBE00は強い腫瘍退縮効果を示す



Tumor growth inhibition (%):

コントロール群の腫瘍増大に対する腫瘍抑制効果を表す。100%は腫瘍の成長が完全に止まった状態、100%超は腫瘍が縮小したことを意味する

MTD (Maximal tolerable dose): 最大耐用量

ROSE12: 抗CTLA-4 スイッチ抗体

■ 広い治療安全域を有することを期待し、固形がんを対象にP1試験実施中

NK: ナチュラルキラー
MΦ: マクロファージ

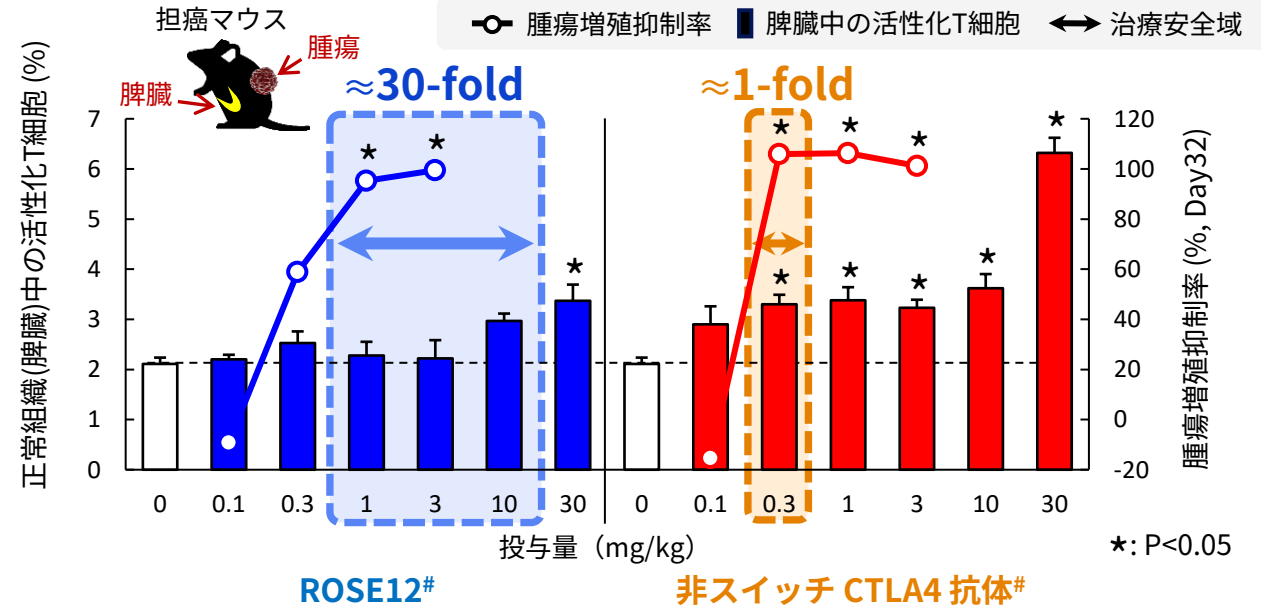
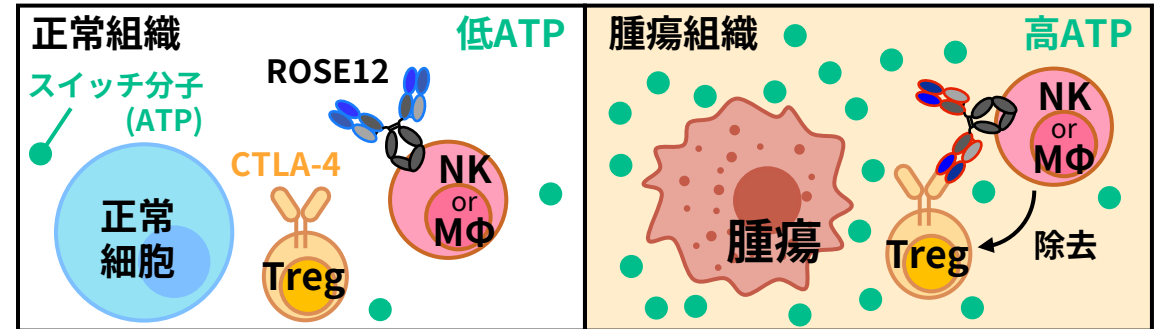
ROSE12 について

- 免疫抑制性の制御性T細胞（Treg）を腫瘍選択的に除去し活性化T細胞を増やすことで、**全身での副作用を抑えて抗腫瘍効果を発揮する**
- 正常組織中の活性化T細胞を増やさずに抗腫瘍効果を示すことを、非臨床試験にて確認済み
- 局所進行又は転移性固形癌患者を対象としたROSE12単剤及びテセントリク併用投与でのP1試験を日米で実施中（NCT05907980）

CTLA-4 について

- 免疫抑制能の強いTregに高発現する膜たんぱく質
- ROSE12はスイッチ分子（細胞外ATP）存在下で、CTLA-4を介してTregと結合する

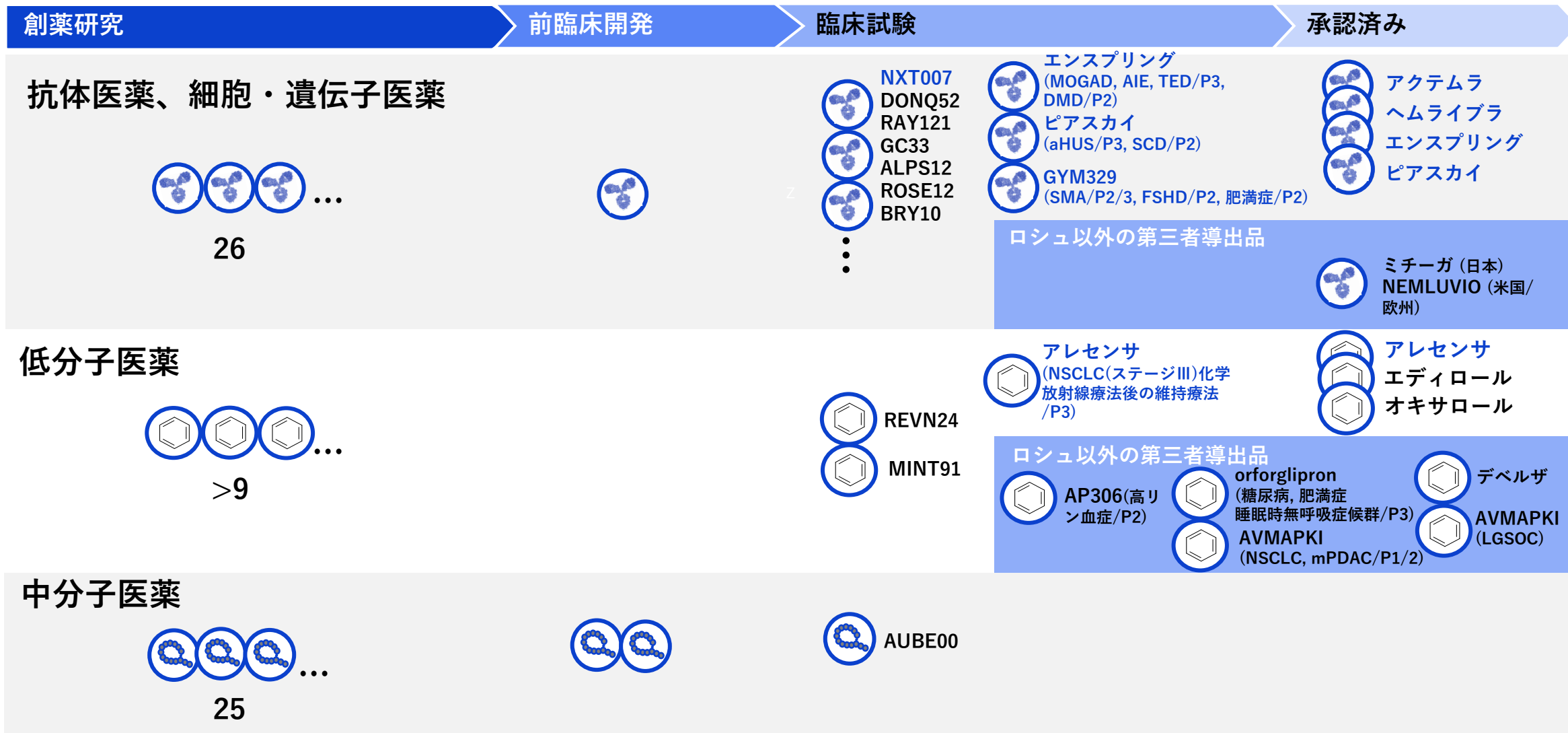
薬剤の活性化なし（スイッチオフ） 薬剤が活性化→効果を発揮（スイッチオン）



マウスサロゲートを使用

各モダリティのポートフォリオ

2025年7月24日現在



今後の申請予定（P2以降開発品・製品）

2025年7月24日現在

申請中

テセントリク (RG7446) 再発または難治性の節外性 NK/T細胞リンパ腫・鼻型	ルンスミオ+ボライビー (RG7828+RG7596) r/r aNHL ★	セルセプト 難治性のネフローゼ症候群
アレセンサ ALK融合遺伝子陽性の 切除不能な進行・ 再発の固形がん ★	テセントリク (RG7446) 切除不能な胸腺がん ★	

新規 適応拡大 ★ 新規追加
自社創製品（グローバル開発）
ロシュ導入品（日本開発販売）

			ガザイバ (RG7159) 小児特発性ネフローゼ症候群						
	テラゴルマブ (RG6058) 1L 肝細胞がん (テセントリク/アバステチン併用)	ラニビズマブ(PDS) (RG6321) nAMD	ガザイバ (RG7159) ループス腎炎		エレビジス (RG6356) DMD(歩行不能)		エンスプリング (SA237/RG6168) DMD	バビースモ (RG7716) 非増殖糖尿病網膜症 ★	
テセントリク+アバステチン (RG7446+RG435) 肝細胞がん (intermediate ステージ)	エンスプリング (SA237/RG6168) 甲状腺眼症	バミキバルト (RG6179) UME	ルンスミオ (RG7828) 2L 濾胞性リンパ腫		afimkibart (RG6631) 潰瘍性大腸炎		NXT007/RG6512 血友病A	ルンスミオ (RG7828) 未治療の濾胞性リンパ腫	
テセントリク (RG7446) MIBC (アジュバント)	ピアスカイ (SKY59/RG6107) aHUS	ギレド ストラント酒石酸塩 (RG6171) 1L-3L 乳がん	テセントリク (RG7446) NSCLC (周術期)		divarasib (RG6330) 2L NSCLC		GYM329/RG6237 肥満症 ★	sefaxersen (RG6299) IgA腎症	
テラゴルマブ+テセントリク (RG6058+RG7446) NSCLC (ステージ III)	エンスプリング (SA237/RG6168) MOGAD	ギレド ストラント酒石酸塩 (RG6171) 1L 乳がん	ラニビズマブ(PDS) (RG6321) DME		ギレド ストラント酒石酸塩 (RG6171) 乳がん (アジュバント)		GYM329/RG6237 FSHD	glofitamab (RG6026) 初発大細胞型B細胞リンパ腫 (ボライビー併用)	
					エンスプリング (SA237/RG6168) 自己免疫介在性脳炎		GYM329/RG6237 脊髄性筋萎縮症 (エブリスディ併用)	ピアスカイ (SKY59/RG6107) 鎌状赤血球症 (グローバル (日本除く))	

2025年

2026年

2027年

2028年以降

aHUS：非典型溶血性尿毒症症候群、DME：糖尿病黄斑浮腫、DMD：デュシェンヌ型筋ジストロフィー、FSHD：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー、MIBC：筋層浸潤性膀胱がん、MOGAD：抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患、nAMD：中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性、NSCLC：非小細胞肺癌、r/r aNHL：再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫、UME：ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫

開発パイプライン (1/2)

2025年7月24日現在

Phase I			Phase II	Phase III		Filed
がん	GC33 / codrituzumab - 肝細胞がん	RG7421 / 北メチニブ マル酸塩 - 固形がん	RG6114 / inavolisib - <i>PIK3CA</i> 陽性乳がん (PI/II) ★	AF802 (RG7853) / アレセンサ - NSCLC(ステージ III)CRT後維持療法	RG6171 /ギレデストラント酒石酸塩 - 乳がん (アジュバント) - 乳がん(1L) - 乳がん(1L～3L)	AF802 (RG7853) / アレ センサ - <i>ALK</i> 融合遺伝子陽性の 切除不能な進行・再発 の固形がん★ RG7446 / テセントリク - 再発または難治性の節 外性NK/T細胞リンパ 腫・鼻型 - 切除不能な胸腺がん★ RG7828 / ルンスミオ + RG7596 / ポライビー - r/r aNHL ★
	ALPS12 / clesitamig - 固形がん	RG6026 / glofitamab - 血液がん		RG7446 / テセントリク - NSCLC (周術期) - 筋層浸潤性膀胱がん (アジュバント) - 肝細胞がん (2L)	RG7828 / ルンスミオ - 濾胞性リンパ腫 (2L) - 未治療の濾胞性リンパ腫	
	ROSE12 - 固形がん	RG6160 / cevostamab - r/r MM		RG7446 / テセントリク + RG435 / アバスチン - 肝細胞がん (intermediate ステージ)	RG6026 / glofitamab + RG7596 / ポライビー - 初発大細胞型B細胞リンパ腫	
	MINT91 - 固形がん			RG6058 / チラゴルマブ + RG7446 /テセントリク - NSCLC (ステージ III)	RG6330 / divarasib - NSCLC (2L)	
	AUBE00 - 固形がん★			RG6058 /チラゴルマブ+RG7446 / テセントリク+RG435 / アバスチ ン - 肝細胞がん (1L)		
免疫 疾患	DONQ52 - セリアック病			RG7159 / ガザイバ - ループス腎炎 - 小児特発性ネフローゼ症候群 - 腎症を伴わないSLE	RG6299 / sefaxersen -IgA腎症 RG6631/afimkibart - 潰瘍性大腸炎	セルセプト - 難治性のネフローゼ症 候群
	RAY121 - 自己免疫疾患					

オレンジ：自社創製品（グローバル開発） ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売） 各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもってパイプライン入りとしています。 ★：2025年4月24日からの変更点

aNHL：アグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫、CRT：化学放射線療法、MM：多発性骨髄腫、NSCLC：非小細胞肺癌、r/r：再発または難治性、SLE：全身性エリテマトーデス

開発パイプライン (2/2)

2025年7月24日現在

	Phase I		Phase II	Phase III	Filed
神経疾患	RG7935 / prasinezumab - パーキンソン病 RG6102/trontinemab - アルツハイマー病 (PI/II)		GYM329 (RG6237) / emugrobart - 脊髄性筋萎縮症 (エブリスディ併用) (PII/III) - FSHD SA237 (RG6168) / エンスプリング - デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD) RG6042 / トミネルセン - ハンチントン病	SA237 (RG6168) / エンスプリング - MOGAD - 自己免疫介在性脳炎 RG6356 / エレビジス - デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD、歩行不能)*	
血液疾患			SKY59 (RG6107) / ピアスカイ (グローバル(日本除く)) - SCD NXT007 (RG6512) - 血友病A (PI/II)	SKY59 (RG6107) / ピアスカイ - aHUS ACE910 (RG6013) / ヘムライブラ - フォン・ヴィレブランド病★	
眼科	RG6321 / PDS - 加齢黄斑変性 (PI/II) - 糖尿病黄斑浮腫 (PI/II)			SA237 (RG6168) / エンスプリング - 甲状腺眼症 RG6179 / バミキバルト - 非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫 (UME) RG7716 / バビースモ - 非増殖糖尿病網膜症★	
その他	REVN24 - 急性疾患 BRY10 - 慢性疾患	RAY121 - (非開示) RG6615 / zilebesiran - 高血圧 (PI/II)	GYM329 (RG6237) / emugrobart - 肥満症★		

オレンジ：自社創製品（グローバル開発） ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売） 各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもってパイプライン入りとしています。 ★：2025年4月24日からの変更点

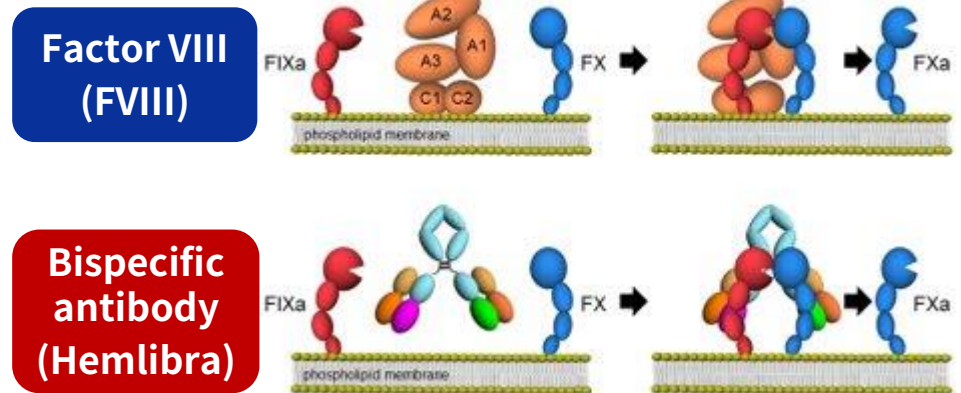
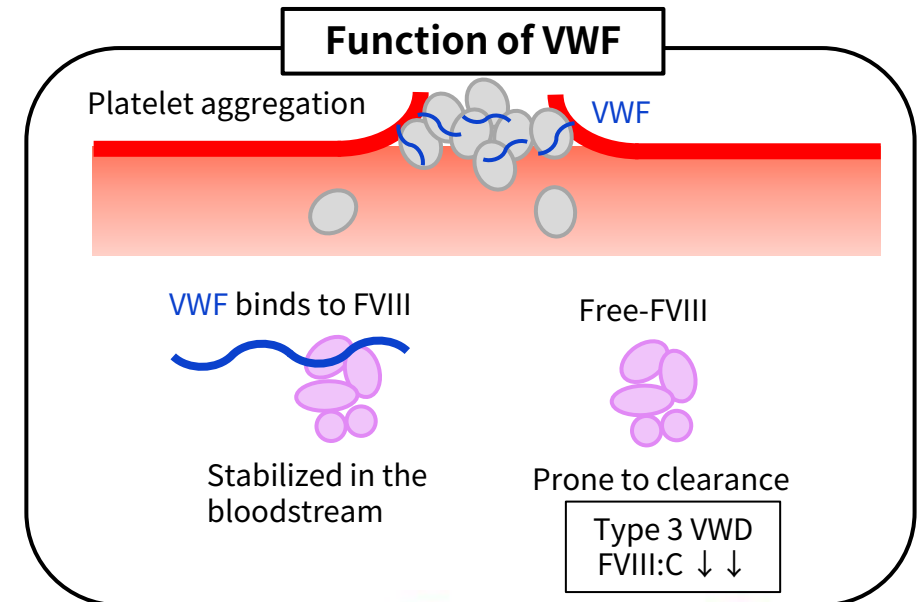
*サレプタ社が日本を含むグローバルでの臨床試験を主導

FSHD：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー、MOGAD：抗ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質抗体関連疾患、SCD：鎌状赤血球症、aHUS：非典型溶血性尿毒症症候群

フォン・ヴィレブランド病 (VWD)のGlobal Phase III開始

■ ヘムライブラはMoAからType 3 VWD患者において出血症状の改善が期待される

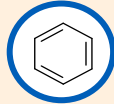
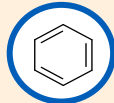
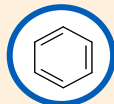
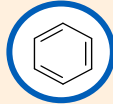
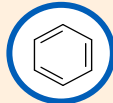
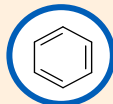
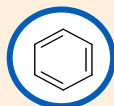
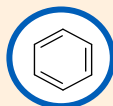
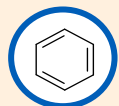
- フォン・ヴィレブランド因子 (VWF)は血管が損傷した際に損傷部位に血小板を補足・粘着させる効果とともに、血液凝固第VIII因子 (FVIII)と結合してFVIIIの安定化や損傷部位への運搬にも関わり、止血において重要な役割を担うタンパク質である
- VWDは、VWFの減少 (Type 1)・欠損 (Type 3)ないしは質的異常 (Type 2)により過度の皮膚粘膜出血 (鼻血、内出血、口腔内出血)や過多月経が認められる常染色体遺伝の出血性疾患である
- VWFが欠損しているType 3 VWDではFVIIIの活性が低下し、重症例においては関節内/筋肉内出血が認められることから、ヘムライブラの活性化FVIII機能代替活性により出血症状改善が期待される
 - ✓ VWF含有製剤による治療は静脈注射、短半減期、インヒビター発現リスク、などの課題を抱えている



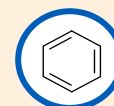
低分子医薬：ポートフォリオ

2025年7月24日現在

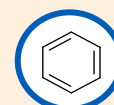
社内開発化合物



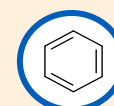
慢性疾患 >7
がん >1



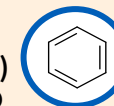
MINT91
(固形がん
/P1)



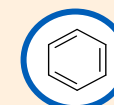
REVN24
(急性疾患
/P1)



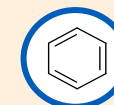
アレセンサ
(NSCLC(ステージIII)
化学放射線療法後の
維持療法/P3)



アレセンサ
(NSCLC, NSCLC
adjuvant)

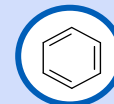


エディロール
(骨粗鬆症)

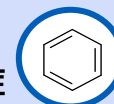


オキサロール
(乾癬)

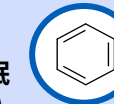
ロシュ以外の第三者導出済み化合物



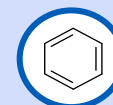
AP306
(高リン血症
/P2)



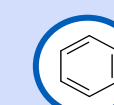
orforglipron
(糖尿病, 肥満症, 睡眠
時無呼吸症候群/P3)



デベルザ
(糖尿病)



AVMAPKI
(NSCLC, mPDAC/P1/2)



AVMAPKI
(LGSOC)

創薬研究

前臨床開発

臨床試験

承認済み

中分子医薬：ポートフォリオ

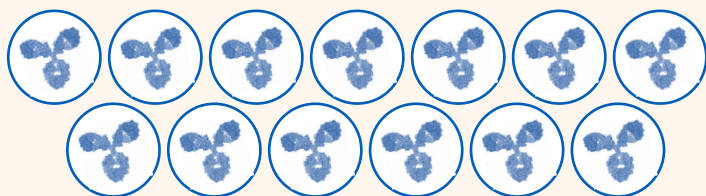
2025年7月24日現在





抗体医薬、細胞・遺伝子医薬：ポートフォリオ


2025年7月24日現在


Established technologies




 NXT007
(血友病A/P1/2)

 RAY121(免疫/P1)


 GC33 (がん/P1)


 BRY10 (慢性疾患/P1)


 エンスプリング
(MOGAD, AIE,
TED/P3, DMD/P2)


 ピアスカイ
(aHUS/P3,
SCD/P2)

 GYM329
(SMA/P2/3,
FSHD/P2,
肥満症/P2)


 アクテムラ
(関節リウマチほか)

 ヘムライブラ
(血友病Aほか)

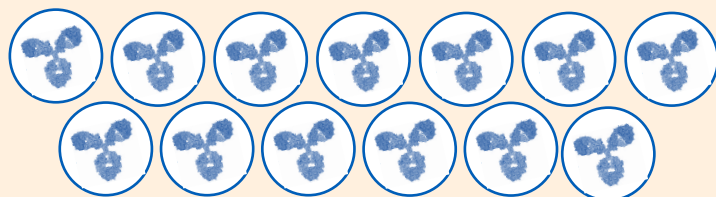
 エンスプリング
(NMOSD)


 ピアスカイ
(PNH)


ロシュ以外の第三者導出済み化合物

 ミチーガ
(アトピー性皮膚炎に伴うそう痒
(日本))
NEMLUVIO
(アトピー性皮膚炎,PN(米国/
欧州))

New technologies



 DONQ52
(セリアック病/P1)

 ALPS12 (がん/P1)

 ROSE12 (がん/P1)

創薬研究

前臨床開発

臨床試験

承認済み

第三者導出プロジェクトの進展 (1/2)

2025年7月24日現在

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の権利範囲	予定適応症	開発ステージ	プロジェクトの状況
avutometinib /VS-6766	RAF/MEK clamp (遮断)	Verastem Oncology	全世界の製造・ 開発・販売の独 占的实施権	<i>KRAS</i> 変異陽性の 再発低悪性度 漿液性卵巣がん (LGSOC)	海外/米国：第III 相 米国：承認★	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国FDA BT指定 (再発LGSOC、defactinibとの併用) ● 米国FDA オーファンドラッグ指定 (再発LGSOC、defactinibとの併用) ● RAMP 301 trial (P3) グローバル(日本除く)で実施中 ● 25年5月に迅速承認制度のもと承認取得 (米国) (一回以上の全身療法による治療歴がある<i>KRAS</i>変異陽性の再発LGSOC、defactinibとの併用) ★
					日本：第II相	<ul style="list-style-type: none"> ● RAMP 201J trial (P2、defactinibとの併用) 開始
				<i>KRAS G12C</i> 変異 陽性の進行非小細 胞肺癌 (NSCLC)	海外/米国： 第I/II相	<ul style="list-style-type: none"> ● RAMP 203 trial (P1/2、(sotorasib±defactinib)との併用) 実施中 (海外) ● 米国FDAファストトラック指定 (sotorasibとの併用) ● 米国FDAファストトラック指定 (defactinib、sotorasibとの併用)
				転移性膵管腺がん (一次治療) (mPDAC)	米国：第I/II相	<ul style="list-style-type: none"> ● RAMP 205 trial (P1/2、ゲムシタビン・nab-パクリタキセルおよびdefactinibとの併用)

★：2025年4月24日からの変更点

第三者導出プロジェクトの進展 (2/2)

2025年7月24日現在

一般名/開発コード	作用機序	導出先	導出先の権利範囲	予定適応症	開発ステージ	プロジェクトの状況
ネモリズマブ	抗IL-31RA ヒト化モノクローナル抗体	Galderma	日本を除く全世界の開発・販売の独占的实施権	アトピー性皮膚炎	海外：承認 (米国/欧州)	<ul style="list-style-type: none"> ● 24年12月に承認取得 (米国) ● 25年2月に承認取得 (欧州)
				結節性痒疹	海外：承認 (米国/欧州)	<ul style="list-style-type: none"> ● 24年8月に承認取得 (米国) ● 25年2月に承認取得 (欧州)
orforglipron /LY3502970	非ペプチド型 経口GLP-1受容体作動薬	Eli Lilly and Company	全世界の開発・販売権	2型糖尿病	グローバル： 第III相	● P3試験（ACHIEVE-1）：40週時点において、orforglipron投与群は、HbA1Cについて平均1.3～1.6%の低下と最高用量で7.9%の体重減少が認められた。安全性プロファイルは注射型GLP-1製剤と同様であった
				肥満症	グローバル： 第III相	● P2試験：36週時点において、orforglipron投与群は、最大14.7%の体重減少を示した。NEJM*に掲載
				睡眠時無呼吸症候群	グローバル： 第III相	● 24年4Q開始
-/AP306 (EOS789)	経口リン酸輸送体阻害剤	Alebund	全世界の製造・開発・販売の独占的实施権	高リン血症	中国：第II相	<ul style="list-style-type: none"> ● P2試験：投与終了時点において、AP306群はベースラインに比し臨床的に意義のある血清中リン濃度の減少を示した ● 中国において、慢性腎臓病患者における高リン血症に対する治療薬として、Breakthrough Therapy指定

* Sean W, et al. Daily Oral GLP-1 Receptor Agonist Orforglipron for Adults with Obesity. *NEJM* 2023.

FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル

ーコンパニオン診断機能の状況ー

2025年7月24日現在

遺伝子変異等	がん種	関連する医薬品
活性型 <i>EGFR</i> 遺伝子変異	非小細胞肺癌	アファチニブマレイン酸塩、エルロチニブ塩酸塩、ゲフィチニブ、オシメルチニブメシル酸塩、ダコチニブ水和物
<i>EGFR</i> エクソン20 T790M変異		オシメルチニブメシル酸塩
<i>ALK</i> 融合遺伝子		アレクチニブ塩酸塩、クリゾチニブ、セリチニブ、ブリグチニブ
<i>ROS1</i> 融合遺伝子		エヌトレクチニブ
<i>MET</i> 遺伝子エクソン14スキッピング変異		カプマチニブ塩酸塩水和物
<i>BRAF</i> V600E及びV600K変異	悪性黒色腫	ダブラフェニブメシル酸塩、トラメチニブジメチルスルホキシド付加物、ベムラフェニブ、エンコラフェニブ、ビニメチニブ
<i>ERBB2</i> コピー数異常（HER2遺伝子増幅陽性）	乳癌	トラスツズマブ（遺伝子組換え）
<i>AKT1</i> 遺伝子変異		カピバセルチブ
<i>PIK3CA</i> 遺伝子変異		
<i>PTEN</i> 遺伝子変異		
<i>KRAS/NRAS</i> 野生型	結腸・直腸癌	セツキシマブ（遺伝子組換え）、パニツムマブ（遺伝子組換え）
高頻度マイクロサテライト不安定性		ニボルマブ（遺伝子組換え）
高頻度マイクロサテライト不安定性	固形癌	ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）
腫瘍遺伝子変異量高スコア		ペムブロリズマブ（遺伝子組換え）
<i>NTRK1/2/3</i> 融合遺伝子		エヌトレクチニブ、ラロトレクチニブ硫酸塩、 <u>レポトレクチニブ</u>
<i>RET</i> 融合遺伝子		セルペルカチニブ
<i>BRCA1/2</i> 遺伝子変異	卵巣癌	オラパリブ
<i>BRCA1/2</i> 遺伝子変異	前立腺癌	オラパリブ、タラゾパリブトシル酸塩
<i>FGFR2</i> 融合遺伝子	胆道癌	ペミガチニブ

FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル

ーコンパニオン診断機能の状況ー

2025年7月24日現在

遺伝子変異等	がん種	関連する医薬品
活性型 <i>EGFR</i> 遺伝子変異	非小細胞肺癌	アファチニブマレイン酸塩、エルロチニブ塩酸塩、ゲフィチニブ、オシメルチニブメシル酸塩
<i>EGFR</i> エクソン20 T790M変異		オシメルチニブメシル酸塩
<i>ALK</i> 融合遺伝子		アレクチニブ塩酸塩、クリゾチニブ、セリチニブ
<i>ROS1</i> 融合遺伝子		エヌトレクチニブ
<i>MET</i> 遺伝子エクソン14スキッピング変異		カプマチニブ塩酸塩水和物
<i>NTRK1/2/3</i> 融合遺伝子	固形癌	エヌトレクチニブ
<i>BRCA1/2</i> 遺伝子変異	前立腺癌	オラパリブ

2025年第2四半期(中間期) 連結決算(Core)概要

取締役 上席執行役員 CFO

谷口 岩昭

損益 1-6月 前年同期比

【億円】	2024年	2025年	増減	
売上収益	5,529	5,785	+ 256	+ 4.6%
製商品売上高	4,855	5,114	+ 259	+ 5.3%
国内	2,172	2,233	+ 61	+ 2.8%
海外	2,684	2,881	+ 197	+ 7.3%
その他の売上収益	673	670	△ 3	△ 0.4%
売上原価	△ 1,602	△ 1,752	△ 150	+ 9.4%
製商品原価率	33.0%	34.3%	+1.3pts	-
研究開発費	△ 840	△ 863	△ 23	+ 2.7%
販売費及び一般管理費	△ 466	△ 454	+ 12	△ 2.6%
その他の営業収益（費用）	8	4	△ 4	△ 50.0%
営業利益	2,628	2,720	+ 92	+ 3.5%
営業利益率	47.5%	47.0%	△0.5pts	-
金融収支等	5	△15	△ 20	-
法人所得税	△ 738	△ 770	△ 32	+ 4.3%
中間利益	1,895	1,935	+ 40	+ 2.1%
EPS（円）	115.15	117.57	+ 2.42	+ 2.1%

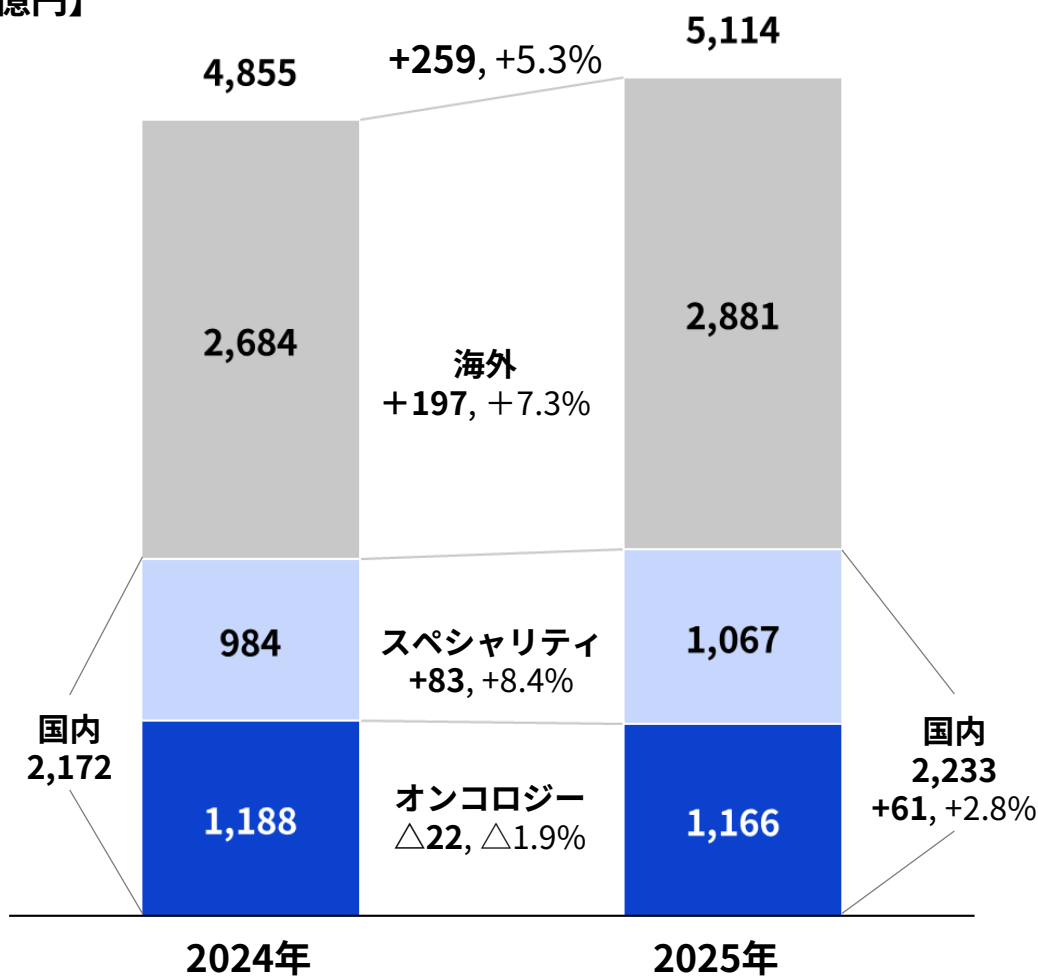
- **国内**
薬価改定や後発品浸透による減少影響を受けたものの、新製品や主力品が大幅な伸長により増加
- **海外**
アクテムラの大幅な伸長により増加
- **その他の売上収益**
ヘムライブラに関する収入が増加した一方、一時金収入が減少
- **売上原価**
製品別売上構成比の変化等により、製商品原価率が上昇
- **研究開発費**
創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加
- **販売費及び一般管理費**
諸経費等が減少

製商品売上高 1-6月 前年同期比

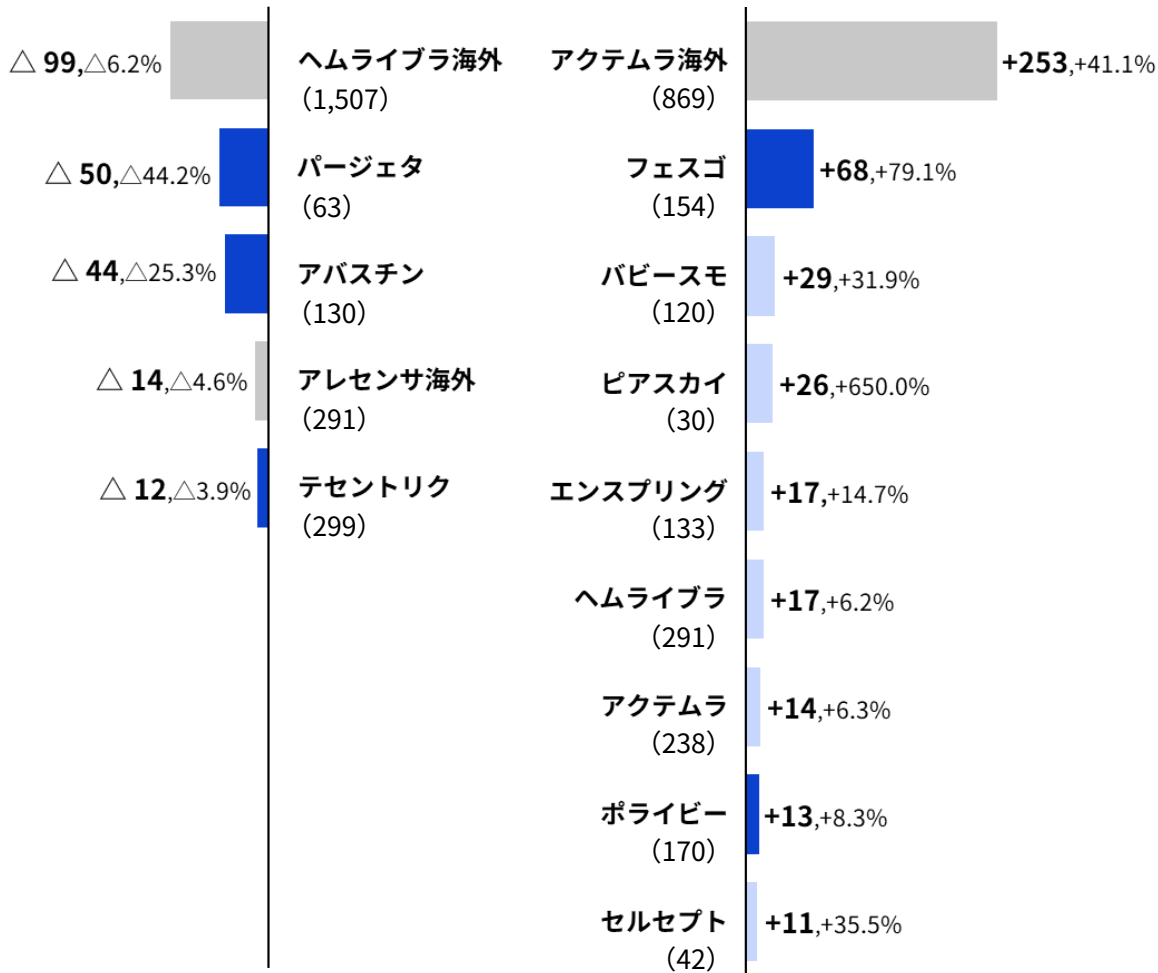
領域別売上高の比較

主な製商品売上高の増減

【億円】

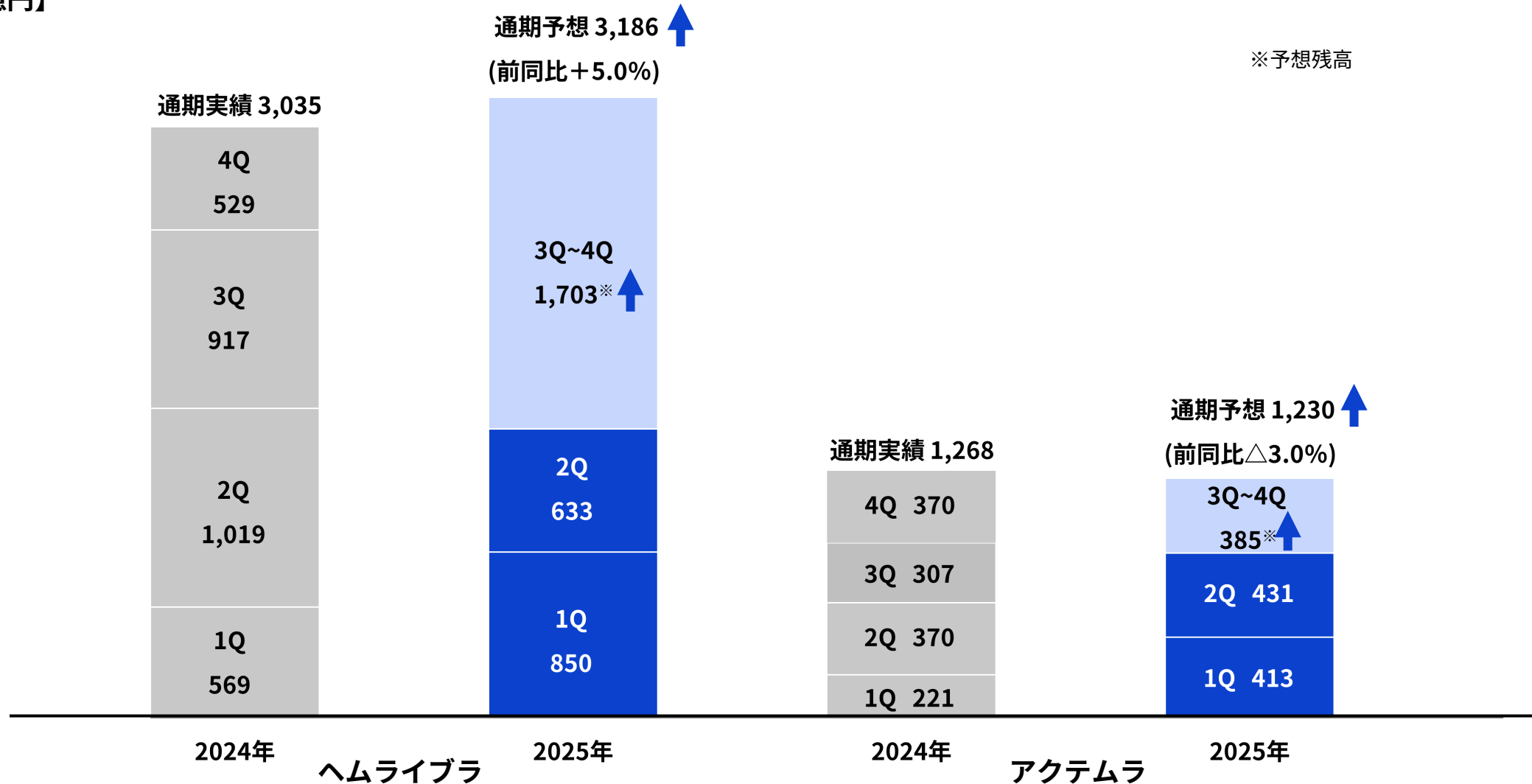


()内は2025年実績 %は増減率



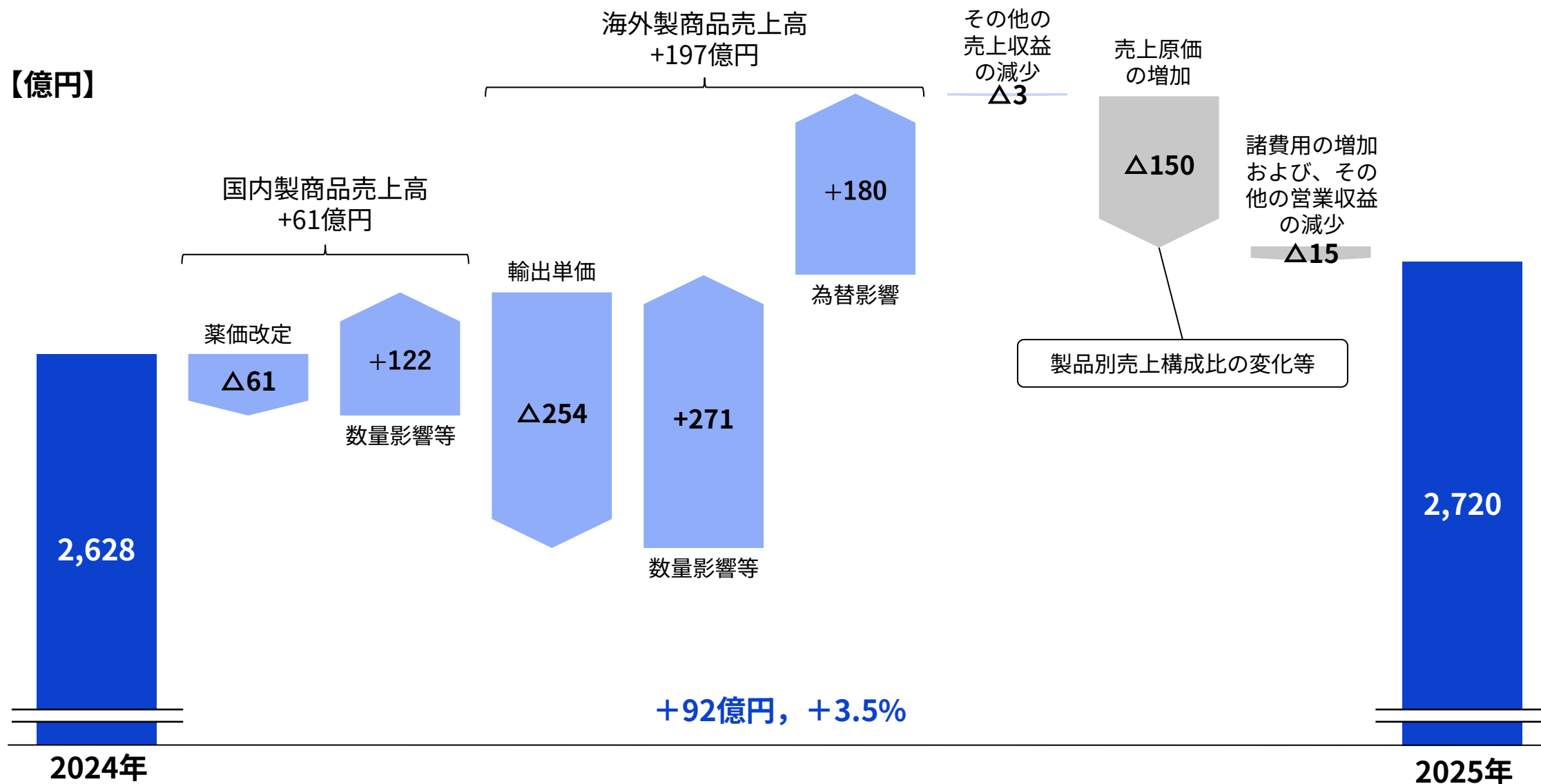
ヘムライブラおよびアクテムラ ロシュ向け輸出

【億円】



営業利益 1-6月 増減

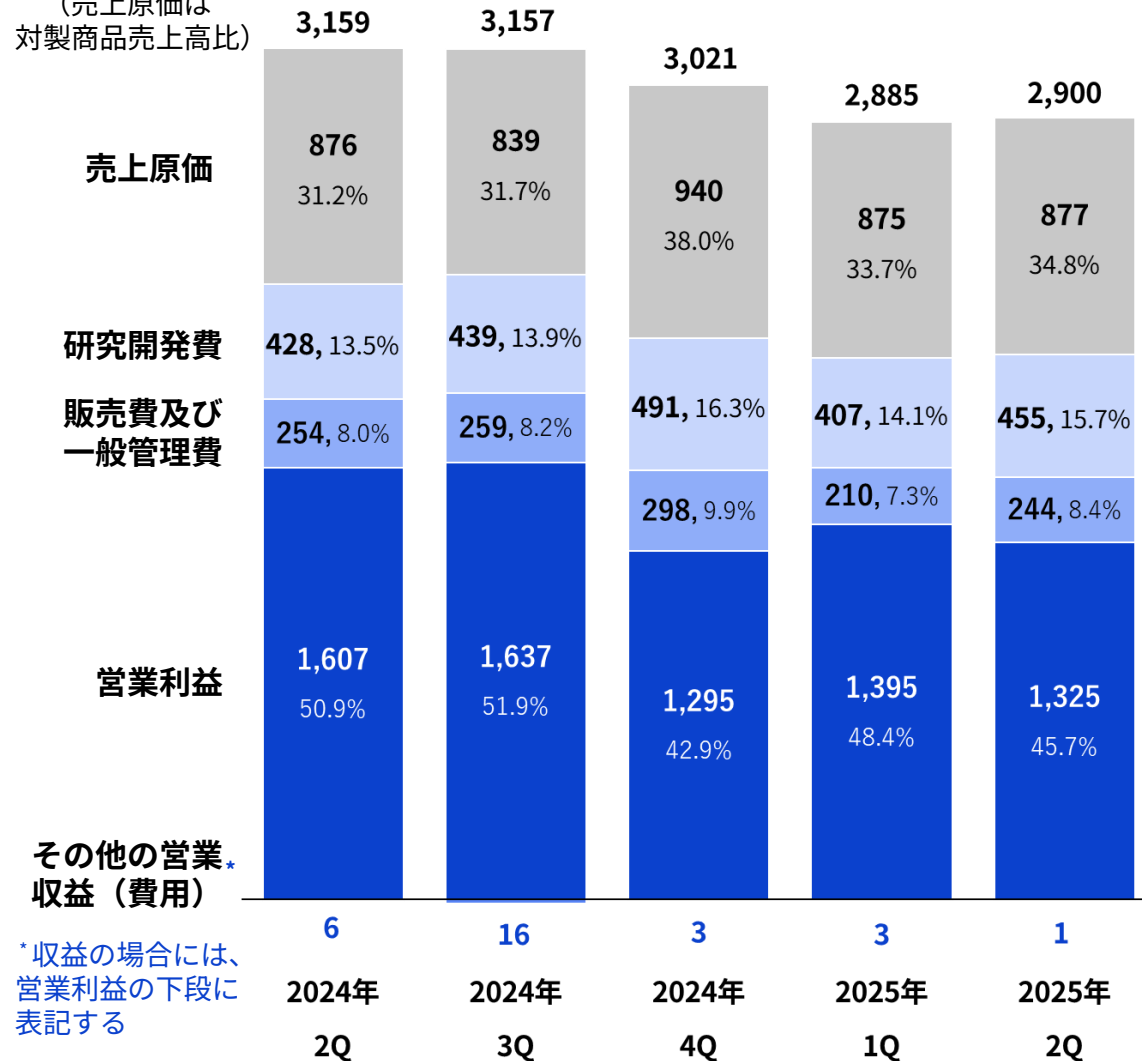
【億円】



損益の構成 四半期推移

【億円】

%は対売上収益比
(売上原価は
対製商品売上高比)



■前年同四半期（2024年2Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇

研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加

販売費及び一般管理費は諸経費等が減少

その他の営業収益（費用）は前年同四半期並み

営業利益 △282億円, △17.5%

■前四半期（2025年1Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇

研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加

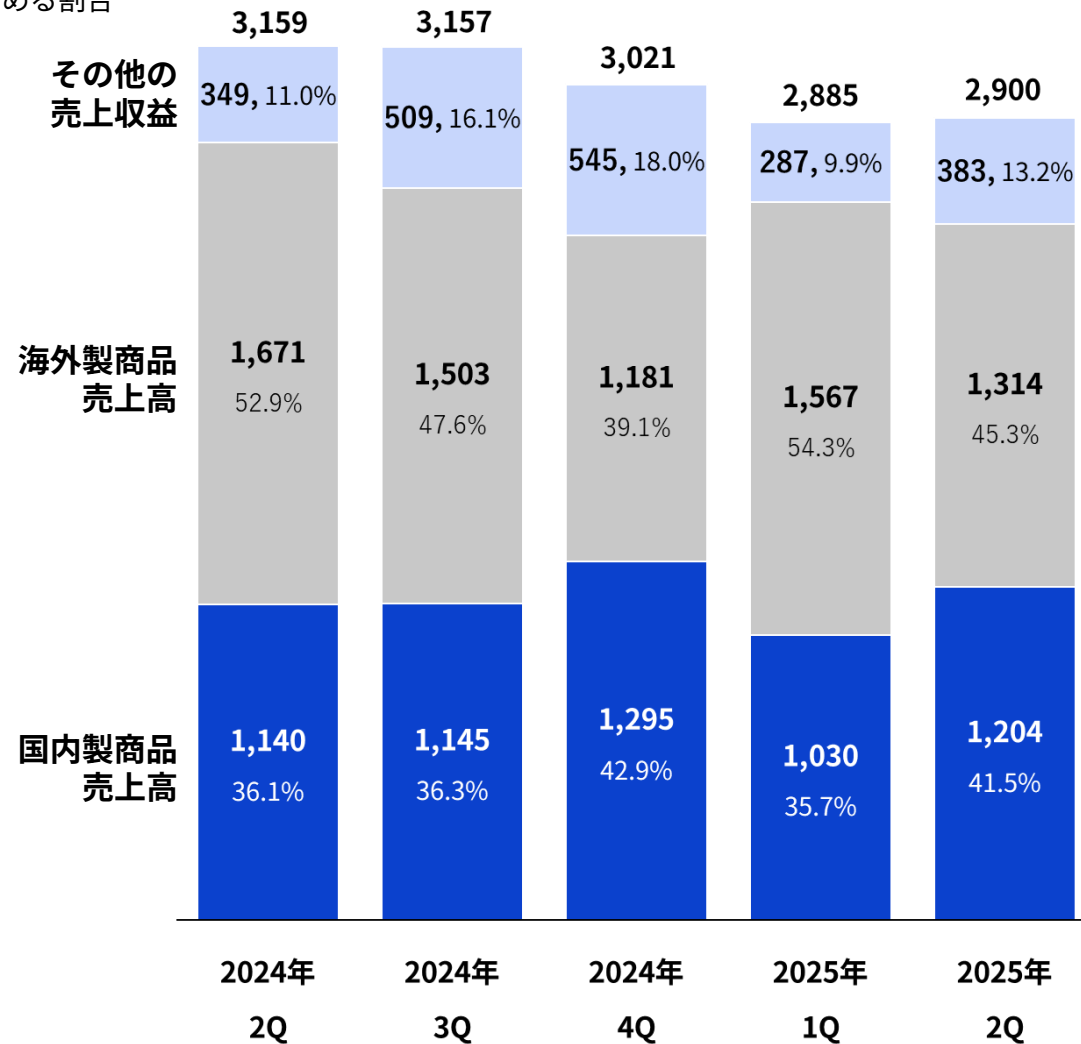
販売費及び一般管理費は営業諸活動が増加

その他の営業収益（費用）は前四半期並み

営業利益 △70億円, △5.0%

売上収益の構成 四半期推移

【億円】

 %は売上収益
に占める割合


■前年同四半期（2024年2Q）比

国内は新製品や主力品の好調な推移により増加

海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが減少

その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

■前四半期（2025年1Q）比

国内は新製品や主力品の好調な推移により増加

海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが減少

その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

損益 1-6月 予想比

【億円】	実績 2025年 1-6月	期初予想 2025年 1-12月	進捗率	2024年 進捗率*
売上収益	5,785	11,900	48.6%	47.2%
製商品売上高	5,114	10,180	50.2%	48.7%
国内	2,233	4,625	48.3%	47.1%
海外	2,881	5,555	51.9%	50.0%
その他の売上収益	670	1,720	39.0%	39.0%
売上原価	△ 1,752	△ 3,410	51.4%	47.4%
製商品原価率	34.3%	33.5%	-	-
研究開発費	△ 863	△ 1,780	48.5%	47.5%
販売費及び一般管理費	△ 454	△ 1,010	45.0%	45.6%
その他の営業収益（費用）	4	-	-	29.6%
営業利益	2,720	5,700	47.7%	47.3%
営業利益率	47.0%	47.9%	-	-
当期（中間）利益	1,935	4,100	47.2%	47.7%
EPS（円）	117.57	250.00	47.0%	47.7%

- 国内
主力品や新製品の好調な進捗
- 海外
ヘムライブラの出荷タイミングが一部6月から7月に後ろ倒しとなった影響がある一方で、アクテムラのロシュ向け輸出が想定に比べ好調な進捗
- その他の売上収益
概ね想定通りの進捗
- 売上原価
1-6月の製商品売上原価率としては概ね想定通り
- 研究開発費
概ね想定通りの進捗
- 販売費及び一般管理費
概ね想定通りの進捗

*2024年通期実績に対する2024年 1-6月実績の進捗率

製商品売上高 1-6月 予想比

【億円】	実績	期初予想		2024年 進捗率*
	2025年 1-6月	2025年 1-12月	進捗率	
製商品売上高	5,114	10,180	50.2%	48.7%
国内	2,233	4,625	48.3%	47.1%
オンコロジー領域	1,166	2,392	48.7%	48.0%
テセントリク	299	620	48.2%	47.6%
ポライビー	170	358	47.5%	46.0%
アレセンサ	158	340	46.5%	48.1%
フェスゴ	154	316	48.7%	36.6%
アバスチン	130	255	51.0%	51.5%
カドサイラ	78	166	47.0%	47.0%
パージェタ	63	119	52.9%	56.5%
ルンスミオ	10	37	27.0%	-
ハーセプチン	7	14	50.0%	58.3%
Foundation Medicine	39	71	54.9%	47.4%
その他	60	96	62.5%	53.4%

【億円】	実績	期初予想		2024年 進捗率*
	2025年 1-6月	2025年 1-12月	進捗率	
スペシャリティ領域	1,067	2,233	47.8%	46.1%
ヘムライブラ	291	594	49.0%	46.4%
アクテムラ	238	500	47.6%	46.7%
エンスプリング	133	260	51.2%	47.0%
バビースモ	120	235	51.1%	42.3%
エブリスディ	79	159	49.7%	47.2%
セルセプト	42	58	72.4%	45.6%
ミルセラ	24	50	48.0%	49.2%
ピアスカイ	30	44	68.2%	15.4%
その他	111	332	33.4%	47.7%
海外	2,881	5,555	51.9%	50.0%
ヘムライブラ	1,507	3,242	46.5%	52.2%
アクテムラ	869	1,276	68.1%	46.7%
アレセンサ	291	670	43.4%	48.6%
エンスプリング	61	126	48.4%	37.0%
シグマート	45	78	57.7%	52.5%
ノイトロジン	46	65	70.8%	53.5%
その他	63	98	64.3%	43.6%

*2024年通期実績に対する2024年 1-6月実績の進捗率

為替影響額 1-6月

	対2024年 実績レート 【C】 vs. 【A】	対2025年 想定レート 【C】 vs. 【B】
売上収益	+233億円	△8億円
製商品売上高	+180億円	△1億円
その他の売上収益	+53億円	△6億円
売上原価	△14億円	+0億円
上記以外 ^{*1}	+1億円	+4億円
営業利益	+220億円	△3億円

	2024年 実績レート ^{*2} 1-6月 【A】	2025年 想定レート 1-6月 【B】	2025年 実績レート ^{*2} 1-6月 【C】
1CHF	160.90円	171.36円	171.31円
1EUR	164.63円	160.00円	162.19円
1USD	135.45円	146.13円	146.56円

2025年 期中市場 平均レート ^{*3} 1-6月	2025年 想定レート 通期
172.12円	171.00円
162.03円	160.00円
148.57円	148.00円

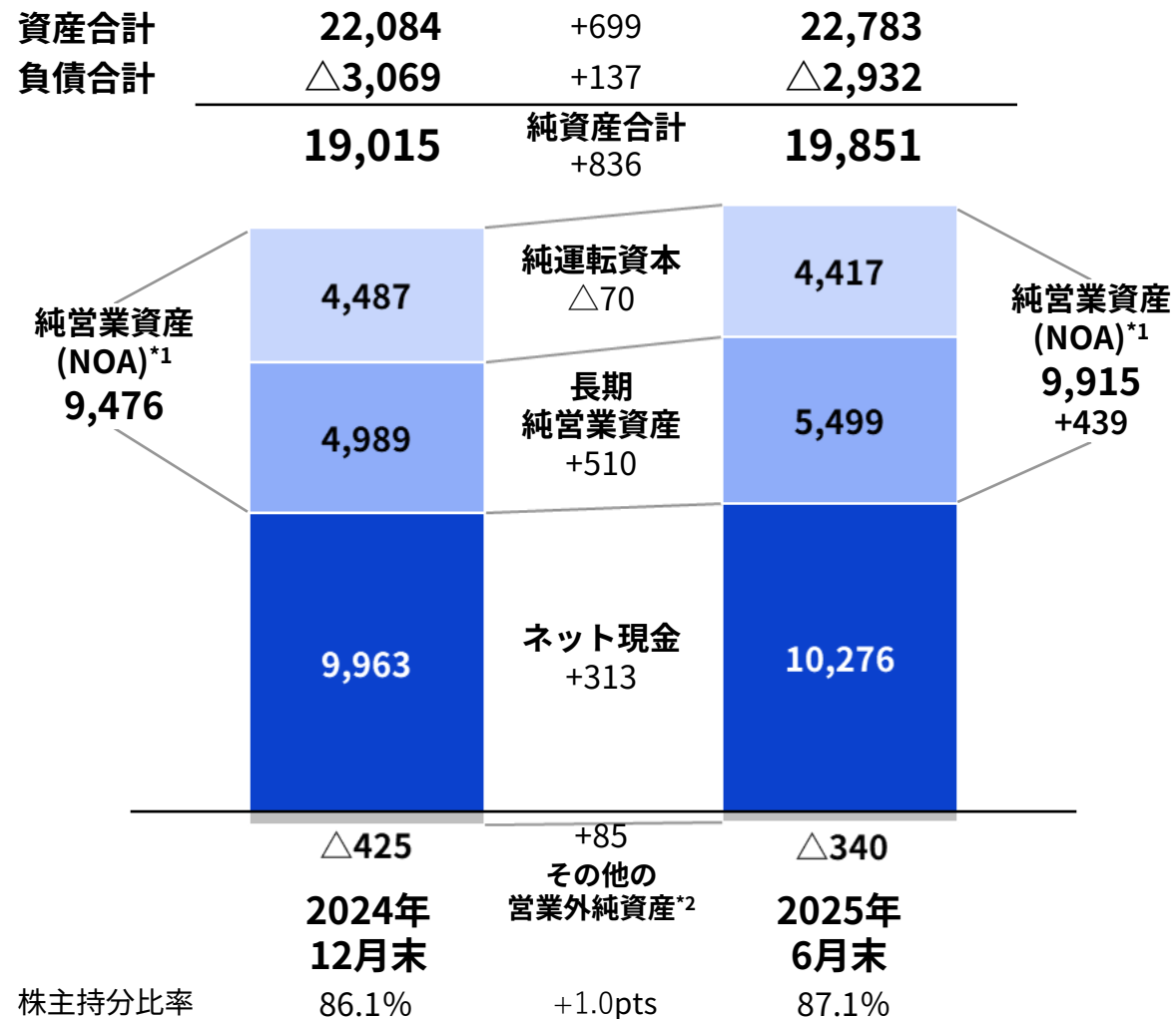
^{*1} 研究開発費、販売費及び一般管理費、その他の営業収益（費用）の合計

^{*2} 営業利益までの科目に含まれる外貨建取引に使用した計上レートを加重平均したもの

^{*3} 決算期間中の市場為替レートを平均したもの

財政状態6月末 前期末比

【億円】



● 純運転資本の減少

設備未払金が減少の一方、営業債務等が増加

● 長期営業資産の増加

以下への投資を主因として有形固定資産が増加

- ✓ 宇都宮工場におけるバイオ原薬製造棟(UT3)
- ✓ 宇都宮工場における注射剤棟 (UTA)

● ネット現金の増加

次ページ参照

● その他の営業外純資産の増加

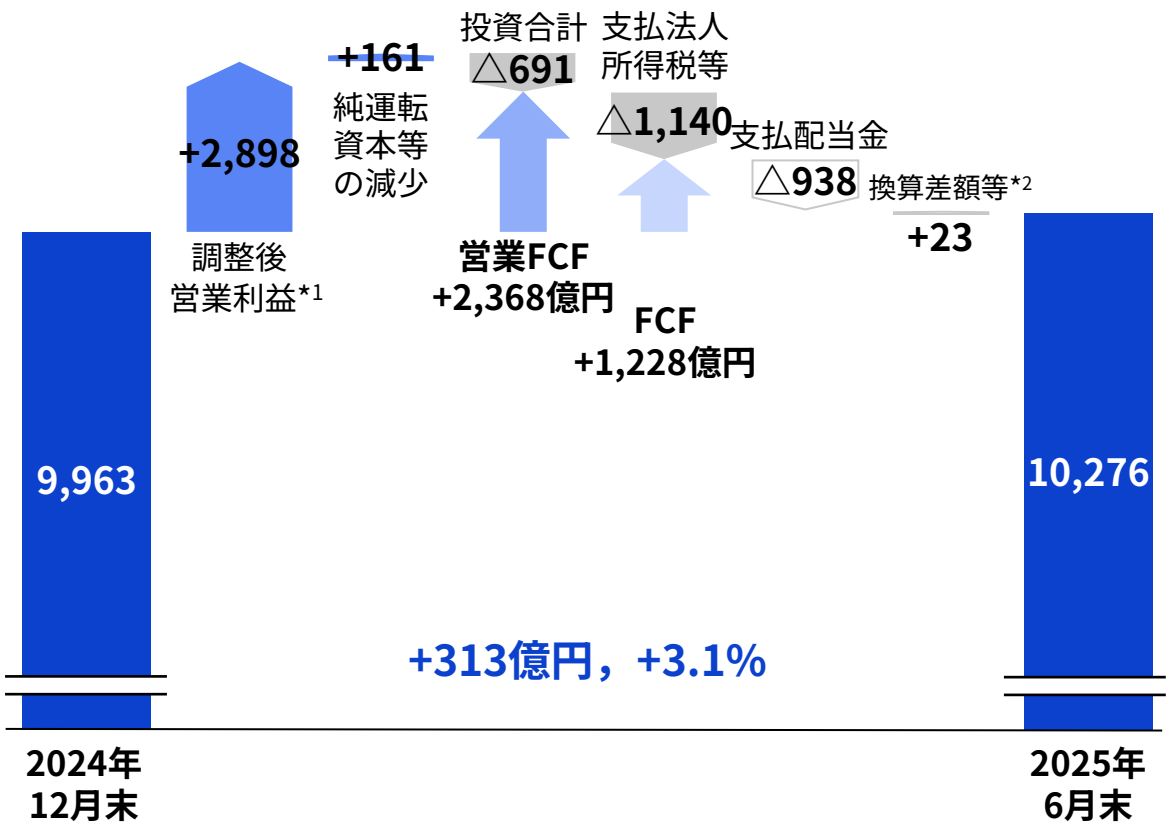
主に未払法人所得税が減少

*¹ NOA : Net Operating Assets

*² 例：繰延税金資産、未払法人所得税等

ネット現金 前期末からの増減

【億円】



*1 Non-Core含む (IFRS実績)

*2 「換算差額等」 = 「自己株式の減少 (増加)」 + 「ネット現金の換算差額 (*3) 等」

*3 在外子会社の財務諸表の換算レート (ネット現金: 期末日レート / FCF: 期中平均レート) の違いから発生 (IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)

■ 調整後営業利益 ^{*1}	+2,898 億円
営業利益 ^{*1}	+2,733 億円
減価償却費、償却費および減損損失 ^{*1}	+161 億円
■ 純運転資本等の減少	+161 億円
■ 投資合計	△691 億円
有形固定資産の取得による支出	△489 億円
リース負債の支払いによる支出	△40 億円
無形資産の取得による支出	△162 億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+2,368 億円
■ 支払法人所得税等	△1,140 億円
支払法人所得税	△1,072 億円
フリー・キャッシュ・フロー	+1,228 億円
■ 支払配当金	△938 億円
■ 換算差額等 ^{*2}	+23 億円

主な投資等の現状と当面の計画

		~2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030~	投資予定額		期間*	
									総額	既投資額		
製造系	宇都宮工場	UT3：中後期治験/初期商用バイオ原薬製造							374億円	299億円	2023年	2026年
	宇都宮工場	UTA：初期商用生産向け無菌注射剤製造							190億円	153億円	2023年	2025年
	浮間工場	UK3（改造工事）：バイオ原薬製造							203億円	57億円	2024年	2027年
研究開発系	CPR	研究機能拡充に伴う施設移転							60百万SGD	15百万SGD	2024年	2026年
	IFReC	IFReCへの包括連携契約に基づく資金提供							100億円	83億円	2017年	2027年
	浮間事業所	UKX：低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能強化							800億円	8億円	2026年	2028年
環境	環境投資**	中期環境目標2030達成に向けた設備更新等							1,359億円 (試算総額)	55億円	2022年	2032年

*設備投資は着手年から完成予定年を表す

**表内に記載されている投資案件の一部を含む

損益 1-6月 Non-Core調整

【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
		無形資産	その他	
売上収益	5,785			5,785
製商品売上高	5,114			5,114
その他の売上収益	670			670
売上原価	△ 1,759	+6	+1	△ 1,752
研究開発費	△ 866	+2	+1	△ 863
販売費及び一般管理費	△ 516		+63	△ 454
その他の営業収益（費用）	90		△86	4
営業利益	2,733	+8	△21	2,720
金融収支等	△ 15			△ 15
法人所得税	△ 774	△3	+7	△ 770
中間利益	1,944	+6	△15	1,935
EPS (円)	118.12			117.57

Non-Core調整

営業利益影響内訳

■無形資産

償却費 +8億円

減損損失 +1億円

■その他

事業再構築費用 +63億円

資産売却益を含む事業所再編費用等 △84億円

自社グローバル品の状況



【億円】

製品名	2025年2Q実績		前年同期比	通期予想	コメント
ヘムライブラ®	国内：	291	+6.2%	594	・国内：引き続き国内シェアが順調に拡大し、前同比で売上増加 ・海外：すべての地域で現地売上が拡大。通期の輸出見通しを過達の見込み ・利便性と蓄積された臨床エビデンスにより、世界中の患者さんへ価値提供
	輸出：	1,507	△6.2%	3,242	
	海外現地：	2,238mCHF	+17%	-	
アクテムラ®	国内：	238	+6.3%	500	・国内：関節リウマチで引き続き新規処方を獲得。他の適応も浸透が進む ・海外：EUで現地売上が減少も、米国、Internationalは順調に推移。輸出は前同比で大幅増加 ・IL-6阻害剤の先発薬として確立されたエビデンスにより患者さんへ価値提供
	輸出：	869	+41.1%	1,276	
	海外現地：	1,126mCHF	+3%	-	
アレセンサ®	国内：	158	+6.0%	340	・国内：21年以降、1次治療に競合品が参入したが、高いシェアを維持 ・海外：米国、Internationalで現地売上が拡大。通期の輸出見通しに変更なし ・進行NSCLCに加えて、早期NSCLCではFICのALK阻害剤として患者さんへ価値提供
	輸出：	291	△4.6%	670	
	海外現地：	702mCHF	+8%	-	
インスプリング®	国内：	133	+14.7%	260	・国内：24年の薬価改定*1が大きいものの、切り替えが順調に進み、前同比で増加 ・海外：すべての地域で現地売上が拡大。輸出も好調に推移 ・ステロイド回避を望む患者さんに対して利便性の高い治療法を提供
	輸出：	61	+19.6%	126	
	海外現地：	98mCHF	+38%	-	
ピアスカイ®	国内：	30	+650.0%	44	・国内：皮下投与の利便性・滞在時間の減少等が患者さんや医療現場で評価され好調に浸透 ・海外：EUで市場導入が進む。世界各国での市場浸透を図っていく ・利便性の向上とC5遺伝子多型を含む患者さんに対する幅広い治療機会の提供
	輸出：	-	- %	-	
	海外現地：	3mCHF	- %	-	

表中の「輸出」は、中外テリトリーの台湾現地売上を含む。「海外現地」は、ロシュによる海外現地売上で、前年同期比の増減は、為替一定ベース
NSCLC：非小細胞肺がん、FIC：First in Class

^{*1}2024年4月 市場拡大再算定 △25.0%

【ヘムライブラ】国内血友病A患者シェア推移

2024年2Q	2024年3Q	2024年4Q	2025年1Q	2025年2Q
33.8%	34.9%	35.3%	36.2%	37.0%

お問い合わせ先

広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881
E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp
担当 : 佐藤、香西、平野、宮澤、和泉

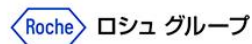
投資家の皆様：インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554
E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp
担当 : 櫻井、島村、山田、池ヶ谷、大塚

創造で、想像を超える。



中外製薬



ロシュ グループ